上越教育大学研究紀要　第29巻　平成22年２月
Bull. Joetsu Univ. Educ., Vol. 29, Feb. 2010

小学校英語教員養成を目指す出張授業への大学生の希望に関する意識調査

北　條　礼　子*・松　崎　邦　守**

（平成21年９月30日受付；平成21年10月29日受理）

要　　旨

2008年７月に本学学部１年生151名を対象に，小学校英語活動に対する学習希望内容と出張授業に関する希望について調査を実施した。データは151名全員の他に中・高英語免許の取得希望がある学生と希望がない学生別に検討した。分析方法として直接確率計算と分散分析を用いた。その結果，英語活動に関して希望する学習内容は小学校英語活動に直接関わる内容，英語力を高める内容，背景的・理論的な内容であった。また，英語の免許の取得希望者の方が英語に関する知識やフォニックス，音声面に関心が高いことが示された。出張授業については，全体的な傾向としては，これまでの出張授業のDVD視聴や大学での練習に関心が高かった。さらに，英語の免許取得を希望する学生の方が出張授業に関する授業，出張授業そのもの，将来小学校で英語を教えたいことに関して関心が高いことが示された。

KEY WORDS
出張授業　English teaching classes conducted by the university students
教員養成　nurturing student-teachers　　ゲスト･ティーチャー　guest teacher
小学校英語活動　English activities at elementary school

１．研究の背景

平成23年度より，全国公立小学校の高学年５，６年生に週１回年間35回程度外国語活動が必修化になることが決定された。しかし，小学校英語は教科の扱いではないので，小学校英語の免許はない。さらに外国語活動が必修化となった後，実際には学級担任が担当することが求められている状況があることから，教員養成が急務であることには異論がないと考えられる。

近年，教師教育において，反省的実践家の養成（佐藤，1996）の必要性が指摘されている。反省的実践家（reflective practitioner）とは，佐藤（1996）によればSchön（1983）が「反省的実践家－専門家は実践過程でどう思考しているか」で提起した概念であり，佐藤（1996）は「技術的実践志向」から「反省的実践」をモデルとする教師教育が求められなければならないと述べている。ポートフォリオの作成過程には，様々な内省活動が内在する（Klenowski，2002）ことから，ポートフォリオは反省的実践家としての教師の養成を具現化するための一つの有力な手立である。

また，佐々木（2004），湯川（2005）によれば，大学生，大学院生によるゲスト・ティーチャー（Guest Teacher：GT）活動を実施した際に，その活動の一環として授業の事前打ち合わせや授業の振り返りが実施され，振り返りの効果が確認されている。この事前打ち合わせや振り返りの実施について，GT活動の活動回数が少ない場合，時間数の少なさを補足する手段として，内省活動を重視するポートフォリオという手法を用いることにより，小学校英語分野での教員養成における反省的実践家への態度養成に大なる効果が期待できることが確認されている（北條・松崎，2006）。

さらに，ポートフォリオを活用しての出張授業における教員養成を考えるにあたり，大学生に出張授業についての希望を直接問うた調査は少ない。本研究は，初等科教員養成系の大学１年生を対象に，小学校，幼稚園への出張授業についての学習内容の希望や出張授業そのものに対する意識を明らかにするものである。

２．研究の目的

本研究の第一の目的は，出張授業プログラムの構想に先立ち，大学生の小学校英語活動に関して希望する学習内容を明らかにすることである。本研究の第二の目的は，反省的実践家養成のための出張授業に対する大学生の意識を明らかにすることである。本研究の第三の目的は，中・高の英語の免許取得を希望する学生と希望しない学生で小学校

*人文・社会教育学系　　**千葉県立千葉高等学校

英語活動に関して希望する学習内容に違いがあるかどうかを明らかにすることである。本研究の第四の目的は，中・高の英語の免許取得を希望する学生と希望しない学生で，出張授業に対する意識に違いがあるかどうかを明らかにすることである。

3．研究の方法

3.1　調査実施時期：2008年７月

3.2　対 象 者：教員養成系Ｊ大学１年生151名

3.3　測 定 具：フェースシート７項目
小学校英語活動の希望学習内容に関する５段階尺度形式26項目
出張授業に関する５段階尺度形式13項目

3.4　手 続 き：回答時間約10分で無記名式の集団調査を実施した。

3.5　分析方法：直接確率計算，分散分析

4．研究の結果：

4.1　フェースシートの項目について

学部１年生151名のうち，中・高英語免許の取得希望者は49名であり，中・高英語免許の取得を希望志望しない学生は102名であった。

その他に，幼稚園・小学校英語活動の参観経験の有無，同活動の視聴希望について，「ある，なし」の二者選択で問うた。その頻度数と直接確率計算結果は表１に示すとおりである。

表１：フェース・シート項目の回答の頻度数と直接確率計算結果（*N*=151）

項目	項　目　内　容	回答数		直接確率計算結果	
		肯定	否定	*p*	肯定　　否定
1	小学校英語活動直接参観経験	9	142	0.00 **	＜
2	小学校英語活動参観希望	119	32	0.00 **	＞
3	小学校英語活動のビデオ・DVD試聴経験	29	122	0.00 **	＜
4	幼稚園英語活動直接参観経験	9	142	0.00 **	＜
5	幼稚園英語活動直接参観希望	102	49	0.00 **	＞
6	幼稚園英語活動のビデオ・DVD試聴経験	15	136	0.00 **	＜

$^{**}p<.01$

表１から，小学校英語活動を参観した経験については，直接確率計算の結果，参観経験のない学生数９名は，参観経験のある学生数142名より１％レベルで有意に少なかった。小学校英語活動の参観希望については，希望者が119名であり，希望しない学生32名より１％レベルで有意に多かった。小学校英語活動をビデオあるいはDVDにより試聴した経験があるかどうかについては，試聴経験のある学生29名の方が試聴経験のない122名より１％レベルで有意に少なかった。さらに，幼稚園英語活動についてであるが，直接参観した経験のある学生は９名であり，直接参観の経験のない学生142名より１％レベルで有意に少なかった。幼稚園英語活動を直接参観したい希望のある学生は102名であり，希望のない49名より１％レベルで有意に多かった。幼稚園英語活動をビデオあるいはDVDにより試聴した経験があるかどうかについては，試聴経験のある学生15名の方が試聴経験のない136名より１％レベルで有意に少なかった。

以上から，小学校英語活動，幼稚園英語活動のどちらについても同様の結果であり，直接参観したり，ビデオ，DVDによる試聴経験は少ないが，直接活動を参観する希望を抱いている学生が多いことがわかった。

4.2　学習希望内容について

4.2.1　対象者全員の結果

本研究の対象者である教員養成系大学１年生151名全員による小学校英語活動に関する学習に対する希望内容に関する26項目について平均(*M*)と標準偏差(*SD*)を求めたが，その結果は表２に示すとおりである。

表２：学習希望内容の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）（*N*=151）

項目	項　目　内　容	*M*	*SD*
1	英語の歌の指導法	4.10	.91
2	チャンツの活用法	4.01	.89
3	英語のゲームの進め方	4.28	.82
4	マザー・グース，ナーサリー・ライム	4.03	.87
5	フォニックスの指導法	3.87	.93
6	英語活動の一般的指導方法・技術	4.17	.90
7	クラスルーム・イングリッシュ	4.17	.92
8	ALTとの話合いに役立つ英語表現	4.26	.86
9	英語の絵本の読み聞かせ法	3.92	.96
10	身近で応用の利く一般的英語表現	4.15	.97
11	英語圏の人々の性格・文化の知識	4.01	1.00
12	英語の文化的，言語的知識	3.74	1.00
13	英語の発音指導法	3.99	.99
14	他教科内容の活用	3.18	1.05
15	臨界期仮説	3.17	1.10
16	英語の手遊び歌	4.05	.91
17	ITによる情報収集方法	3.36	.95
18	英語活動の活動案の立て方	3.97	.90
19	授業分析方法	3.88	.90
20	英語活動の評価方法	3.85	.92
21	教材や教具の作り方	4.13	.91
22	文字指導方法	3.91	.91
23	英語活動でのIT活用法	3.40	.98
24	活用可能な視聴覚教材情報	3.74	.97
25	市販英語活動教材の情報	3.64	.93
26	小学校英語活動先行研究結果	3.64	.98

表２を平均が高い順に並べ直したのが表３である。

表３をみると，各項目の平均は3.17から4.28を推移しており，概してどの内容も肯定的に捉えられていた。平均が４点台を示した項目内容をみると，学習希望内容として，第一に「ALTとの打合せに必要な英語表現」，「クラスルーム・イングリッシュ」，「身近で応用の利く一般的な英語表現」という英語力に関する希望内容，第二に，「英語のゲーム」，「英語活動の一般的指導方法・技術」，「教材・教具の作り方」，「英語の歌の指導法」，「英語の手遊び歌」，「マザー・グース，ナーサリー・ライム」，「チャンツの活用法」などの指導法」に関する英語活動の内容に関する希望内容，第三に「英語圏の人々・文化の知識」に関するものの３つに大別されるようである。

さらに，以上の26項目に関する分散分析の結果，項目17のITによる情報収集方法，項目14の他教科内容の活用，項目15の臨界期仮説に関する学習希望が有意に低いことがわかった（$F(25,\ 3750)=27.65^{**}$；$MSe=0.53$，$p<.05$）。

表３：学習希望内容の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）（*N*=151）

項目	項　目　内　容	*M*	*SD*
3	英語のゲームの進め方	4.28	.82
8	ALTとの話合いに役立つ英語表現	4.26	.82
6	英語活動の一般的指導方法・技術	4.17	.90
7	クラスルーム・イングリッシュ	4.17	.92
10	身近で応用の利く一般的英語表現	4.15	.97
21	教材や教具の作り方	4.13	.91
1	英語の歌の指導法	4.10	.91
16	英語の手遊び歌	4.05	.91
4	マザー・グース，ナーサリー・ライム	4.03	.87
11	英語圏の人々の性格・文化の知識	4.01	1.00
2	チャンツの活用法	4.01	.89
13	英語の発音指導法	3.99	.99
18	英語活動の活動案の立て方	3.97	.95
9	英語の絵本の読み聞かせ法	3.92	.96
22	文字指導方法	3.91	.91
19	授業分析方法	3.88	.90
5	フォニックスの指導法	3.87	.93
20	英語活動の評価方法	3.85	.92
24	活用可能な視聴覚教材情報	3.74	.97
12	英語の文化的，言語的知識	3.74	1.00
25	市販英語活動教材の情報	3.64	.93
26	小学校英語活動先行研究結果	3.64	.98
23	英語活動でのIT活用法	3.40	.98
17	ITによる情報収集方法	3.36	.95
14	他教科内容の活用	3.18	1.05
15	臨界期仮説	3.17	1.09

4.2.2　中・高英語免許の取得希望別の結果

中・高英語免許の取得を希望する学生49名と希望しない学生102名の学習希望内容に関する26項目の平均（*M*）と標準偏差（*SD*），ならびに分散分析結果は表４に示すとおりである。

全26項目のうち，５％レベルで有意差がみられた項目が２項目，有意傾向がみられた項目が３項目あり，いずれも中・高英語免許の取得を希望する群の平均の方が希望しない群の平均より高かった。５％レベルで有意差がみられたのは項目５の「フォニックスの指導法」と項目12の「英語の文化的，言語的知識」であった。英語の免許を希望する学生の方が英語そのものの知識やフォニックスに関して関心が高いことが示された。また，有意傾向がみられたのは，項目２の「チャンツの活用法」，項目４の「マザー・グースなどのナーサリー・ライム」，項目13の「英語の発音指導法」であった。ここからも英語の免許を希望する学生の方が英語の音声面への関心が強い傾向がみられることがわかった。

また，項目８の「ALTとの話合いに役立つ英語表現」や項目７の「クラスルーム・イングリッシュ」，項目10の「身近で応用の利く一般的英語表現」などの英語力に関しては，有意差はみられず，中・高英語免許の取得希望のあるなしにかかわらず，学習希望が強いこともわかった。さらに，項目３の「英語のゲームの進め方」，項目６の「英語活動の一般的指導方法・技術」，項目１の「英語の歌の指導法」についても有意差はみられず，調査対象者が外国語活動に同様のイメージを抱いていると考えられる。最後に，項目14の「他教科内容の活用」，項目15の「臨界期仮説」についても有意差がみられず，調査対象者はどちらの内容についても関心が低いことがわかった。

表４：中・高英語免許取得希望別学習希望内容の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）ならびに分散分析結果（み=151）

項目	項　目　内　容	取得希望あり（*N*=49）		取得希望なし（*N*=102）		分散分析結果		大小比較
		M	*SD*	*M*	*SD*	*F*(1,149)	*p*	有　無
1	英語の歌の指導法	4.20	1.00	4.05	.86	.97	*ns*	
2	チャンツの活用法	4.18	.91	3.92	.88	2.90	†	＞
3	英語のゲームの進め方	4.31	.87	4.26	.80	.08	*ns*	
4	マザー・グース，ナーサリー・ライム	4.22	.90	3.94	.84	3.59	†	＞
5	フォニックスの指導法	4.12	.95	3.75	.90	5.63	*	＞
6	英語活動の一般的指導方法・技術	4.29	.96	4.11	.87	1.30	*ns*	
7	クラスルーム・イングリッシュ	4.29	1.02	4.12	.87	1.10	*ns*	
8	ALTとの話合いに役立つ英語表現	4.43	.94	4.19	.82	2.65	*ns*	
9	英語の絵本の読み聞かせ法	3.96	1.08	3.90	.91	.12	*ns*	
10	身近で応用の利く一般的英語表現	4.31	1.02	4.08	.94	1.83	*ns*	
11	英語圏の人々の性格・文化の知識	4.14	1.08	3.94	.96	1.34	*ns*	
12	英語の文化的，言語的知識	4.04	1.10	3.60	.93	6.69	*	＞
13	英語の発音指導法	4.20	1.04	3.89	.95	3.34	†	＞
14	他教科内容の活用	3.31	1.04	3.12	1.05	1.07	*ns*	
15	臨界期仮説	3.18	1.13	3.16	1.08	.02	*ns*	
16	英語の手遊び歌	4.06	.99	4.05	.87	.01	*ns*	
17	ITによる情報収集方法	3.18	.91	3.45	.96	2.66	*ns*	
18	英語活動の活動案の立て方	3.96	1.00	3.97	.93	.00	*ns*	
19	授業分析方法	3.92	.98	3.86	.87	.13	*ns*	
20	英語活動の評価方法	4.00	.96	3.78	.90	1.83	*ns*	
21	教材や教具の作り方	4.18	.99	4.11	.88	.23	*ns*	
22	文字指導方法	4.04	.98	3.84	.88	1.56	*ns*	
23	英語活動でのIT活用法	3.53	1.06	3.34	.94	1.21	*ns*	
24	活用可能な視聴覚教材情報	3.76	.99	3.73	.97	.03	*ns*	
25	市販英語活動教材の情報	3.65	1.01	3.63	.90	.02	*ns*	
26	小学校英語活動先行研究結果	3.76	.92	3.59	1.01	.96	*ns*	

†.05＜*p*＜.10　*p＜.05

4.3　小学校英語活動の出張授業に関する希望について

4.3.1　対象者全員の結果

本研究の対象者である教員養成系大学１年生151名全員による小学校英語活動（含幼稚園）の出張授業に関する希望に関する13項目について平均（*M*）と標準偏差（*SD*）を求めたが，その結果は表５に示すとおりである。表５を平均が高い順に並べ直したのが表６である。各項目の平均は2.77から3.99を推移しており，将来幼稚園で英語を教えることと，一人で小学校英語活動を実施したい希望があること以外の項目は概して肯定的に捉えられていた。

さらに，以上の13項目に関する分散分析の結果，以下のことがわかった（$F(12,\ 1800)=27.50^{**}$；$MSe=0.59$，$p<.05$）。まず，「これまでの出張授業視聴希望」，「出張授業前の大学での練習希望」が他の希望内容に比べて有意に強かった。項目10，11，３，２，１，９，８までの小学校，幼稚園への出張授業への参加希望，出張授業に関する授業への参加希望や活動案作成希望，学生数人でのTT希望が続いていた。さらに，それに続く将来小学校で英語を教えること，将来幼稚園で英語を教えること，一人で小学校英語活動の実施を希望することの間には有意な差がみられた。

以上から，本調査の対象となった大学１年生は，出張授業については，まずこれまで実施されてきた外国語活動の出張授業の様子を試聴し，自分が出張授業に行くことになれば，大学での練習を希望していることがわかり，どちらかというと出張授業に関する授業があるとよいと感じ，出張授業に行ける講義や活動案を考えること，そして数人でのTTへの希望があることがうかがえる。将来小学校で英語を教えることについても関心がみられた。しかし，幼稚園で英語を教えることにはどちらかといえば消極的であり，特に一人で出張授業をする希望は低いこともわかった。

表５：出張授業への希望に関する項目内容の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）（*N*=151）

項目	項　目　内　容	*M*	*SD*
1	附属小学校への出張授業に参加希望あり	3.44	1.16
2	Ｊ市立小学校への出張授業に参加希望あり	3.50	1.14
3	附属幼稚園への出張授業に参加希望あり	3.49	1.24
4	学生数人によるTTに参加希望あり	3.43	1.08
5	一人で小学校英語活動の実施希望あり	2.77	1.15
6	出張授業前に大学での練習希望あり	3.93	1.14
7	これまでの出張授業のDVD試聴希望あり	3.99	1.09
8	出張授業の活動案を考えたい	3.42	1.10
9	出張授業に行ける講義を受けたい	3.42	1.09
10	小学校の出張授業に行ける授業があればよい	3.55	1.06
11	幼稚園の出張授業に行ける授業があればよい	3.54	1.06
12	将来小学校で英語を教えたい	3.22	1.29
13	将来幼稚園で英語を教えたい	2.97	1.31

表６：出張授業への希望に関する項目内容の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）（*N*=151）

項目	項　目　内　容	*M*	*SD*
7	これまでの出張授業のDVD試聴希望あり	3.99	1.09
6	出張授業前に大学での練習希望あり	3.93	1.14
10	小学校の出張授業に行ける授業があればよい	3.55	1.06
11	幼稚園の出張授業に行ける授業があればよい	3.54	1.06
3	附属幼稚園への出張授業に参加希望あり	3.49	1.24
2	Ｊ市立小学校への出張授業に参加希望あり	3.50	1.14
1	附属小学校への出張授業に参加希望あり	3.44	1.15
9	出張授業に行ける講義を受けたい	3.42	1.09
8	出張授業の活動案を考えたい	3.42	1.10
4	学生数人によるTTに参加希望あり	3.43	1.08
12	将来小学校で英語を教えたい	3.22	1.29
13	将来幼稚園で英語を教えたい	2.97	1.31
5	一人で小学校英語活動の実施希望あり	2.77	1.15

4.3.2　中・高英語免許の取得希望別の結果

中・高英語免許の取得を希望する学生と希望しない学生の出張授業に関する13項目の平均（*M*）と標準偏差（*SD*），ならびに分散分析結果は表７に示すとおりである。

全13項目のうち，１％レベルで有意差がみられた項目が１項目，５％レベルで有意差がみられた項目が５項目，有意傾向がみられた項目が２項目あり，いずれも中・高英語免許の取得希望あり群の平均の方が希望しない群の平均より高かった。まず１％レベルで有意差がみられたのは項目２の「Ｊ市立小学校への出張授業に参加希望あり」であった。５％レベルで有意差がみられたのは，全体での平均が高い順に並べると，項目10の「小学校の出張授業に行ける授業があればよい」，項目１の「附属小学校への出張授業に参加希望あり」，項目９の「出張授業に行ける講義を受けたい」，項目12の「将来小学校で英語を教えたい」，項目５の「一人で小学校英語活動の実施希望あり」であった。英語の免許を希望する学生の方が出張授業に関する授業，出張授業そのもの，将来小学校で英語を教えたいことに関して関心が高いことが示された。また，有意傾向がみられたのは，項目８の「出張授業の活動案を考えたい」と項目４の「学生数人によるTTに参加希望あり」であった。ここからも英語の免許を希望する学生の方が活動案の作成やTTによる出張授業への関心が強い傾向がみられることがわかった。

また，項目６の「出張授業前に大学での練習希望あり」や項目７の「これまでの出張授業のDVD試聴希望あり」の大学における出張授業への準備については両群とも平均が高いものの有意差はみられず，中・高英語免許の取得希

望のあるなしにかかわらず，希望が強いこともわかった。さらに，項目３の「附属幼稚園への出張授業に参加希望あり」，項目11の「幼稚園の出張授業に行ける授業があればよい」，項目13の「将来幼稚園で英語を教えたい」についても有意差はみられず，幼稚園での英語活動には関心があるが，将来幼稚園で英語を担当したいとは必ずしも考えていないことがわかった。

表７：中・高英語免許取得希望別出張授業への希望に関する項目内容の平均（*M*）と標準偏差（*SD*）ならびに分散分析結果（*N*=151）

項目	項　目　内　容	取得希望あり（*N*=49）		取得希望なし（*N*=102）		分散分析結果		大小比較
		M	*SD*	*M*	*SD*	*F*(1,149)	*p*	有　無
1	附属小学校への出張授業に参加希望あり	3.80	1.02	3.27	1.18	7.05	*	＞
2	Ｊ市立小学校への出張授業に参加希望あり	3.96	.98	3.27	1.14	12.97	**	＞
3	附属幼稚園への出張授業に参加希望あり	3.53	1.24	3.47	1.25	.08		
4	学生数人によるTTに参加希望あり	3.67	1.11	3.31	1.05	3.74	†	＞
5	一人で小学校英語活動の実施希望あり	3.14	1.12	2.60	1.13	7.77	*	＞
6	出張授業前に大学での練習希望あり	4.10	1.07	3.84	1.17	1.72		
7	これまでの出張授業のDVD試聴希望あり	4.14	1.06	3.92	1.10	1.38		
8	出張授業の活動案を考えたい	3.67	1.07	3.30	1.10	3.82	†	＞
9	出張授業に行ける講義を受けたい	3.73	.97	3.26	1.11	6.43	*	＞
10	小学校の出張授業に行ける授業があればよい	3.84	.96	3.41	1.07	5.52	*	＞
11	幼稚園の出張授業に行ける授業があればよい	3.69	.98	3.47	1.10	1.47		
12	将来小学校で英語を教えたい	3.61	1.27	3.03	1.26	7.02	*	＞
13	将来幼稚園で英語を教えたい	3.00	1.32	2.96	1.30	.03		

†$.05<p<.10$　*$p<.05$　**$p<.01$

4.4　自由記述式回答内容について

本研究では，自由記述式で「大学での小学校英語教育の講義について，あなたが希望する内容があったら，具体的に書いてください」という問いについて，151名の対象者から以下の表８に示すような回答が得られた。

全体として自由記述の回答は少なかったが，表５の自由記述式の回答をみると，「ビデオを見てみたい」という意見や「実践力をつけたい」，「実際に子どもに教える」，「子どもとのふれあい」など出張授業に関するものが散見された。

また，「小学生に英語を楽しく教える方法」，英語の歌や絵本，英語のあそびなど活動の内容に関するコメントもみられた。

表８：大学での小学校英語教育の講義について希望する内容自由記述式回答

・小学校の段階では，英会話の方を重視するのがいいと思う
・授業見学
・子どもとのふれあい
・小学生に英語を楽しく教える方法があったらいい
・もっと教員採用試験に関するような講義をしてほしいです
・テキストを使うような講義はやめてほしい
・実践力をつけたい
・英語のあそびをもっとおしえてほしい
・実際に子どもに教える
・英語の絵本などをやりたいです
・ビデオを見てみたい
・現在使われている教材や使用予定の教材を使った模擬授業
・児童にとって魅力的で楽しい英語の授業の仕方を学習する講義
・英語の歌をやりたいなと思う　カントリーロードとか
・英語の苦手な自分にとっては，小学校で学習する具体的内容とその対策を行ってほしい

5．考察：

5.1　フェースシートの項目について

小学校英語活動，幼稚園英語活動のどちらについても，直接参観やビデオ，DVDによる試聴経験は少ないが，直接活動を参観する希望を抱いている学生が多いことがわかった。

5.2　学習希望内容について

本研究で扱った26の学習希望内容は概して肯定的に捉えられていた。平均が4点台を示した項目内容をみると，第一に「ALTとの打合せに必要な英語表現」，「クラスルーム・イングリッシュ」，「身近で応用の利く一般的な英語表現」という英語力に関するもの，第二に「英語のゲーム」「英語活動の一般的指導方法・技術」，「教材・教具の作り方」，「英語の歌の指導法」，「英語の手遊び歌」，「マザー・グース，ナーサリー・ライム」，「チャンツの活用法」などの指導法」に関する英語活動の内容に関するもの，第三に「英語圏の人々・文化の知識」に関するものの3つに大別された。本研究は，教員養成大学1年生を対象としたが，英語活動に関して希望する学習内容は授業に直接関わる内容，英語力を高める内容，背景的・理論的な内容であった。この結果は，現職教員が研修において希望している内容と同様であった

樋口他（2005）は教員対象のアンケート結果から，教員が必要と感じている研修内容として，授業に直接関わる内容，背景的・理論的な内容，英語の研修の3点をあげているが，現職小学校教員を対象とした北條（2008）の結果は，樋口他（2005）の結果と同様であった。

以上から，これから小学校教員を目指す大学生についても，学生自身が授業に直接関わる内容，背景的・理論的な内容，英語力向上の学習内容が求めていると考えられる。

しかし，以上の26項目に関する分散分析の結果，「ITによる情報収集方法」，「他教科内容の活用」，「臨界期仮説」に関する学習希望が有意に低いことがわかった（$F(25,\ 3750)=27.65^{**}$；$MSe=0.53$，$p<.05$）。このうち，他教科内容の活用については，特に高学年の知的発達を考慮する際に学習指導要領でも推進されている内容である。他教科関連の内容を基にした外国語活動は，今後より必要となっていくものと考えられるので，大学の講義では取り上げていく必要があろう。

中・高英語免許の取得を希望する学生と希望しない学生とでは，学習希望内容に関しての結果をみると，英語の免許取得を希望する学生の方が，英語の文化的，言語的知識やフォニックスに関して関心が高いことが示された。また，英語の免許の取得を希望する学生の方が英語の音声面への関心が強い傾向もみられた。しかし，「ALTとの話合いに役立つ英語表現」，「クラスルーム・イングリッシュ」，「身近で応用の利く一般的英語表現」などの英語力に関しては，有意差はみられず，中・高英語免許の取得希望のあるなしにかかわらず，希望が強いこともわかった。大学の講義では，将来小学校教員を目指す学生に対して，クラスルーム・イングリッシュをはじめとする実践に結びつく英語力向上を図ることも必要であることが示された。

5.3　出張授業について

本調査の対象となった大学1年生は全体として，出張授業については，まずこれまで実施されてきた外国語活動の出張授業をDVD等により試聴し，自分が出張授業に行くことになれば，大学での練習を希望していることが示された。また出張授業関する授業は，どちらかというと大学にあるとよいと感じ，出張授業に行ける講義や活動案を考えること，そして数人の学生によるTTへの希望があること，さらに，将来小学校で英語を教えることについては関心があるが，幼稚園で英語を教えることにはどちらかといえば消極的であり，特に一人で出張授業をする希望は低いことも示された。

また，中･高の英語の免許の取得を希望する学生の方が希望しない学生に比べて，出張授業に関する授業，出張授業そのもの，将来小学校で英語を教えたいことに関して関心が強いことが明らかになった。さらに，英語の免許を希望する学生の方が活動案の作成やTTによる出張授業への関心が強い傾向がみられることもわかった。しかし，これまでの出張授業のDVD試聴を希望したり，出張授業前に大学での練習を希望するなどの，出張授業への準備については両群とも平均が高いものの有意差はみられず，中・高英語免許の取得希望のあるなしにかかわらず，希望が強いこともわかった。さらに，学生は英語の免許取得希望にかかわらず，幼稚園での英語活動には関心があるが，将来幼稚園で英語を担当したいとは必ずしも考えていないことも示された。

以上から，学生全体については，少なくとも出張授業についてDVD等による授業の様子を紹介すること，中･高の英語の免許を希望する学生については，機会があれば出張授業の実施も考えて行く必要性があると思われる。

引用・参考文献

樋口忠彦他編．(2005)．「これからの小学校英語教育－理論と実践－」．東京：研究社．

北條礼子・松崎邦守．(2005)．「ポートフォリオを活用した大学生ゲスト･ティーチャー（GT）による英語活動の試み－反省的実践家養成を目指して－」．『小学校英語教育学会紀要』．*6*，35-41．

北條礼子・松崎邦守．(2008)．「現職小学校教員の小学校英語活動（支援，校種間連携，研修希望内容等）への意識に関する調査研究」．『小学校英語教育学会紀要』．*8*，97-104．

北條礼子．(2008)．「現職小学校教員の小学校英語活動の研修希望内容に関する調査研究」．『上越教育大学研究紀要』．*28*，183-192．

Klenowski, V. (2002). *Developing Portfolios for Learning and Assessment: Processes and principles*. London: Routledge Falmer.

松崎邦守・北條礼子．(2007)．「ポートフォリオの適用の効果に関する事例研究」．『日本教育工学会論文誌』．*31*(Supple.)，157-160．

佐々木ゆり．(2004)．「教員養成大学における小学校英語教育指導者養成プログラムの試み」．『日本児童英語教育学会第25回全国大会資料集』．5-8．

佐藤　学．(1996)．『教育方法学』東京：岩波書店．

A Survey of University Freshmen's Hopes for English Teaching Classes Conducted by the University Students on a Voluntary Basis: For the Purpose of Nurturing Student-teachers

HOJO Reiko* · MATSUZAKI Kunimori**

ABSTRACT

The first purpose of this study is to investigate the contents of courses of teaching English at elementary school which university students who aspire to be teachers hope to take. The second purpose of the study is to investigate what the students think of English teaching classes conducted by the university students on a voluntary basis. The third purpose of the study is to investigate whether or not any differences could be found in the students' hopes for the contents of the courses between the students who hope to obtain English teaching licenses for junior and high school and those who do not hope to do so. The fourth purpose of the study is to investigate whether or not any differences could be found in how the students regard English teaching classes conducted by the university students on a voluntary basis, between the students who hope to obtain teaching licenses of English at junior and high school and those who do not hope to do so. In July of 2008, 151 university students answered the questionnaires, which consisted of a face sheet, twenty-six 5-point Likert scale items concerning the contents of courses of English teaching to elementary school students, thirteen 5-point Likert scale items concerning English teaching at elementary school as guest teachers, and a request for free comments on the contents of the courses. The students were divided into two groups, namely 49 students who hoped to obtain English teaching licenses for junior and high school, and 102 students who did not hope to do so. The data was analyzed by a Fisher's exact test and ANOVA.

The results of the face sheet revealed that the number of the students who had observed or watched DVDs of the English classes both at elementary school and kindergartens was significantly lower than those who had not; the number of the students who hoped to observe the English classes was significantly higher than those who did not. Moreover, concerning the results of the twenty-six items, all of the items were felt to be necessary for the students, though knowledge of both the Critical Period Hypothesis and Content-Related Instruction were rated significantly lower. Concerning the thirteen items, it was revealed that the students hoped to watch DVDs of the English classes held in previous years and to practice lessons before going to teach English to elementary school students. Moreover, the students who hoped to obtain an English teaching license showed stronger interest in English teaching classes conducted on a voluntary basis.

* Humanities and Social Studies Education ** Chiba Prefectural Chiba High School